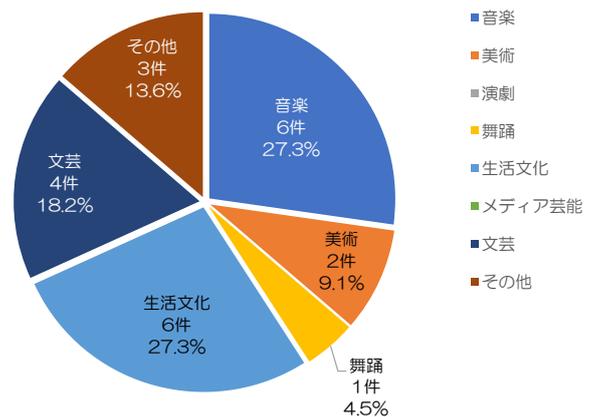


苫小牧市文化芸術に関するアンケート調査結果（文化団体）

- (1) 目的
「第三次苫小牧市民文化芸術振興推進計画(R8～R17年度)」を策定するにあたり、文化芸術に関する意識や活動状況を把握し、検討資料とすることを目的として実施。
- (2) 調査対象者
苫小牧市文化団体協議会加盟団体（37団体）
- (3) 調査期間
令和7年1月17日（金）に各団体へ郵送し、2月7日（金）を回答期限とした。
- (4) 調査方法
アンケート用紙の返送による回答または二次元コードによるインターネットでの回答のいずれかとした。
- (5) 回答数
回答団体数 22 団体（回収率：59.5%） うち、アンケート用紙での回答 16団体
インターネットでの回答 6団体

1. 団体の活動分野について

	件数	割合
1. 音楽（クラシック・ジャズ・吹奏楽・合唱・民謡など）	6件	27.3%
2. 美術（絵画・写真・陶芸など）	2件	9.1%
3. 演劇（演劇・ミュージカルなど）	0件	0.0%
4. 舞踊（ダンス・バレエ・日本舞踊など）	1件	4.5%
5. 生活文化（茶道・華道・書道・囲碁・将棋など）	6件	27.3%
6. メディア芸能（映画・アニメーションなど）	0件	0.0%
7. 文芸（短歌・俳句・川柳・詩など）	4件	18.2%
8. その他	3件	13.6%
合計	22件	100.0%

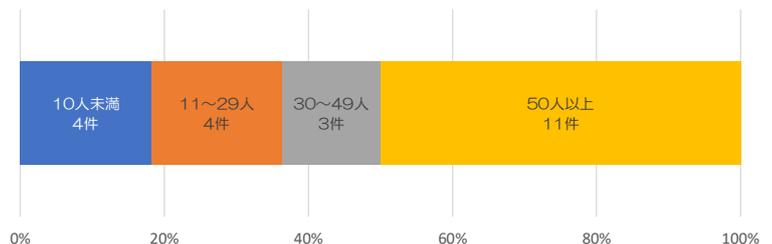


【その他の内容】
・郷土史 ・絵手紙 ・伝統芸能（琵琶）

➤回答があった22団体のうち、最も多かったのは「音楽」と「生活文化」が同数で「6件、27.3%」でした。このほか、「文芸」や「美術」、「舞踊」といった回答があり、多岐にわたる分野で活動されていることがわかります。演劇、メディア芸能の団体からの回答はありませんでした。

2. 団体の構成人数について

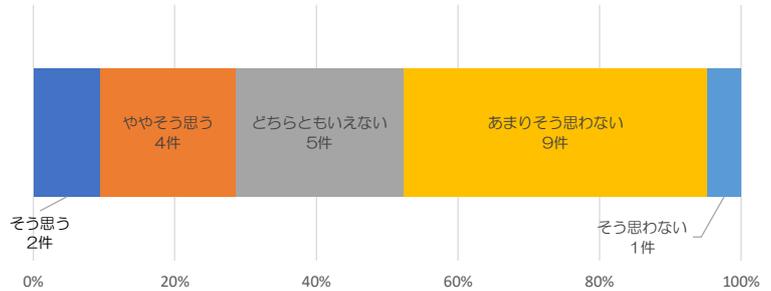
	件数	割合
1. 10人未満	4件	18.2%
2. 11～29人	4件	18.2%
3. 30～49人	3件	13.6%
4. 50人以上	11件	50.0%
合計	22件	100.0%



➤構成人数が「50人以上」の団体が11件で半数を占めています。次に多いのが「10人未満」及び「11～29人」の団体でそれぞれ4件となっています。

3.文化芸術活動を行う環境が整っていると思うか

	件数	割合
1. そう思う	2件	9.5%
2. ややそう思う	4件	19.0%
3. どちらともいえない	5件	23.8%
4. あまりそう思わない	9件	42.9%
5. そう思わない	1件	4.8%
合計	21件	100.0%



【そう思う・ややそう思う理由】

活動の場所がある：4件、成果発表の機会がある：1件、その他：1件（場所・機会どちらもある）

【あまりそう思わない・そう思わない理由】

活動の場所がない：4件、成果発表の機会がない：1件、その他：5件（市の文化団体の課題把握・解決への取組が不足。活動資金の不足が深刻化（特に市民ホールの利用料金によっては活動制限の可能性あり）。子どもや文化団体へのよりきめ細かい支援策が欲しい。市民会館の使用料減免がない。）

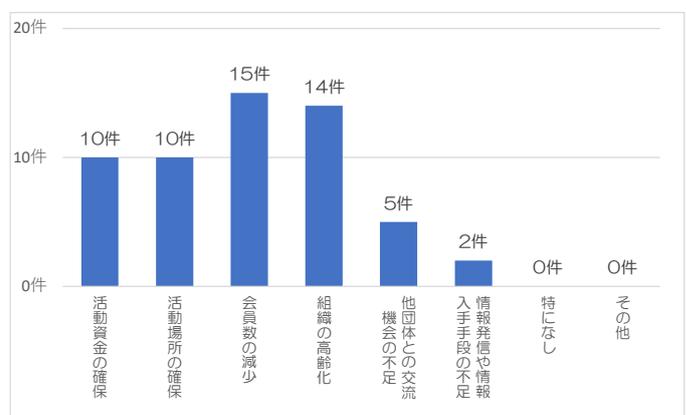
【どちらともいえない理由】

2件（団体のやる気次第だと思う、現在はかろうじて活動の場があるが年毎に減少している）

➤「あまりそう思わない」「そう思わない」が合わせて47.7%と、半数近くを占める結果となりました。「そう思う」「ややそう思う」は合わせて約3割にとどまっており、多くの団体が活動するうえで何かしらの課題を抱えていることが伺えます。

4.文化芸術活動をするうえでの課題 ※複数回答：3つまで

	件数	割合
1. 活動資金の確保	10件	17.9%
2. 活動場所の確保	10件	17.9%
3. 会員数の減少	15件	26.8%
4. 組織の高齢化	14件	25.0%
5. 他団体との交流機会の不足	5件	8.9%
6. 情報発信や情報入手手段の不足	2件	3.6%
7. 特になし	0件	0.0%
8. その他	0件	0.0%
合計	56件	100%



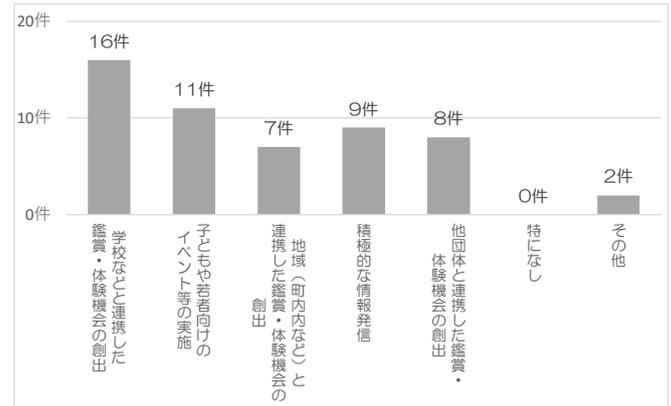
➤各団体から寄せられた課題として「会員数の減少」(26.8%)、「組織の高齢化」(25.0%)が大きな割合を占めており、多くの文化団体が直面している課題となっています。

ついで、活動資金や活動場所の確保もそれぞれ17.9%と、活動の基盤に関わる課題を抱えていることもわかります。

特に会員数の減少は、活動の継続に大きな影響を与えることから、課題解決に向けて市と文化団体が連携して取り組みを行うことが重要と考えます。

5.子どもや若者が文化芸術に親しむための取組について ※複数回答：3つまで

	件数	割合
1. 学校などと連携した鑑賞・体験機会の創出	16件	30.2%
2. 子どもや若者向けのイベント等の実施	11件	20.8%
3. 地域（町内内など）と連携した鑑賞・体験機会の創出	7件	13.2%
4. 積極的な情報発信	9件	17.0%
5. 他団体と連携した鑑賞・体験機会の創出	8件	15.1%
6. 特になし	0件	0.0%
7. その他	2件	3.8%
合計	53件	100%



【その他の内容】

- ・体験や鑑賞もよいが、活動している団体に対する支援の強化
- ・イオン苫小牧店内やカルチャーパークに小劇場の設置、博物館の有効利用

＜すでに取り組んでいる事例＞

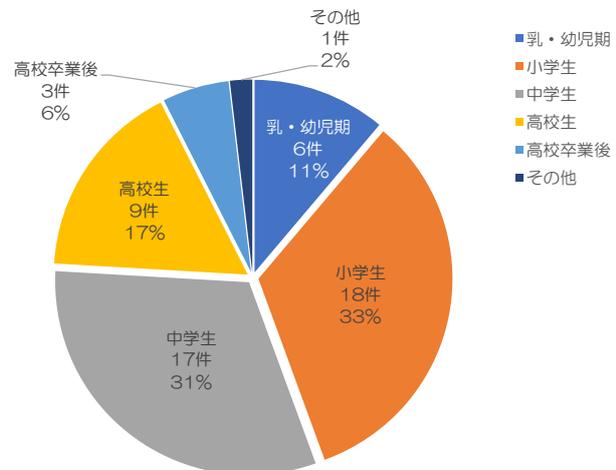
- ・苫小牧囲碁伝統文化普及会のコミセン囲碁教室で、子どもと大人の世代間交流を8年間行っている。また、北洋大学の異文化交流講座で学生や留学生が参加し、言葉が要らないグローバルなゲームとして囲碁を紹介、体験してもらった。
- ・小学生向けの吹奏楽・楽器体験会を開催し、参加した小学生が地域の小学生バンドに入りやすいような環境を整備している（吹奏楽の裾野の拡大）。また、春と秋の2回の吹奏楽祭を通じて、連盟加盟団体が合同で演奏する機会を設定し、団体相互の交流を深める場を作っている（横のつながりの強化）。
- ・毎年、子ども俳句教室を開催している。

➤最も多かった回答は「学校などと連携した鑑賞・体験機会の創出」(30.2%)でした。子供たちにとって身近な存在の学校で文化芸術に触れる機会として、アウトリーチの積極的な活用なども検討されるものと思われます。

以降、「子どもや若者向けのイベント等の実施」(20.8%)、「積極的な情報発信」(17.0%)と続き、子供や若者にとって魅力的なイベントの実施や情報発信を強化したりすることで、主体的・積極的に文化芸術に触れる機会を増やすことが求められているものと考えられます。

6.子どもや若者が質の高い文化芸術に触れる時期 ※複数回答：3つまで

	件数	割合
1. 乳・幼児期	6件	11.1%
2. 小学生	18件	33.3%
3. 中学生	17件	31.5%
4. 高校生	9件	16.7%
5. 高校卒業後	3件	5.6%
6. わからない	0件	0.0%
7. その他	1件	1.9%
合計	54件	100%



【その他の内容】

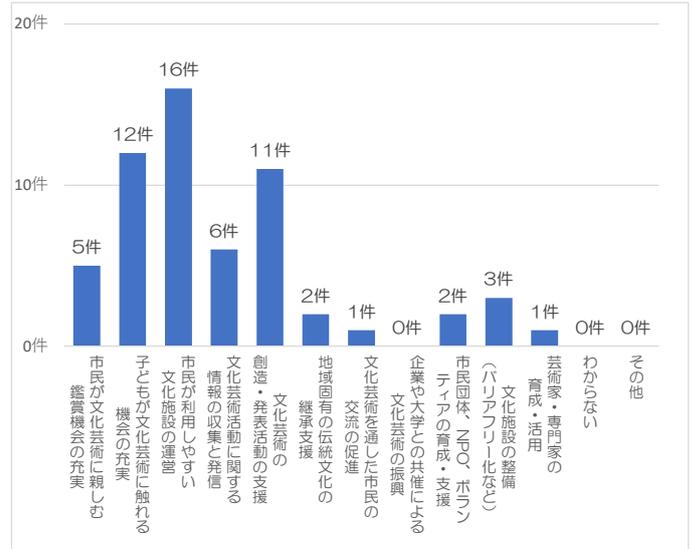
- ・どの時期でも必要

➤小学生 (33.3%) と中学生 (31.5%) で約65%を占めています。この時期に様々な文化芸術に触れることで、豊かな感性を育むとともに、生涯にわたる文化芸術への興味関心の礎を築くことが重要であると考えられます。

また、「どの時期でも必要」といった声もあるように、乳幼児期や高校生以降も、それぞれの発達段階に合わせて、文化芸術に触れる機会を確保していくことが必要であると思われる。

7. 今後の苫小牧市の文化芸術のために、市の取組として重要だと思うもの ※複数回答：3つまで

	件数	割合
1. 市民が文化芸術に親しむ鑑賞機会の充実	5件	8.5%
2. 子どもが文化芸術に触れる機会の充実	12件	20.3%
3. 市民が利用しやすい文化施設の運営	16件	27.1%
4. 文化芸術活動に関する情報の収集と発信	6件	10.2%
5. 文化芸術の創造・発表活動の支援	11件	18.6%
6. 地域固有の伝統文化の継承支援	2件	3.4%
7. 文化芸術を通じた市民の交流の促進	1件	1.7%
8. 企業や大学との共催による文化芸術の振興	0件	0.0%
9. 市民団体、NPO、ボランティアの育成・支援	2件	3.4%
10. 文化施設の整備（バリアフリー化など）	3件	5.1%
11. 芸術家・専門家の育成・活用	1件	1.7%
12. わからない	0件	0.0%
13. その他	0件	0.0%
合計	59件	100.0%



➤最も多かったのは、「市民が利用しやすい文化施設の運営」(27.1%)で 特に2025年3月にオープンする市民文化ホールの利用についての声が見られます。

また、「子どもが文化芸術に触れる機会の充実」(20.3%) が次いで多く、未来を担う子どもたちへ文化芸術の楽しさを伝えながら次世代への継承が重要だと認識していることが伺えます。

このほか「文化芸術の創造・発表活動の支援」(18.6%) が多く、活動を継続・発展させていくための活動費用の支援などが求められているものと考えられます。

◇その他、文化芸術振興について意見・要望 ※自由記載

- 今、文化団体を支えている人たちは高齢化の70過ぎの方たちが主となり、後に継ぐ世代もなく、10年先の文化団体の見通しは暗いといえる。各団体と教育での市との集まりを持ち、それぞれの持つ課題の現実をつかみ机上の計画にならないことを望む。
- 学校への発信。鑑賞機会等は先生方がいろいろ忙しいのでむずかしい面もあります。教育委員会で積極的に動いてくれると良いです。
- 2025年4月オープンの新文化会館が文化団体の利用しやすい料金になるのが最大の関心事です。具体的な減免の取扱についてできるだけ早く明らかになることを切望しています。
- 芸術などは特に9～10歳ごろまでの体験が大事であるとききます。
- 予算的援助、市民ホールの使用料を高くしない
- 大きな災害があった時などに何が被災した人たちに笑顔にさせているかといえば、それは歌であったり、音楽や芸術に触れた時なのではないかと私は思います。その感動が被災した人の心を癒しよみがえらせ、やさしく背中を押しているのではないかと。そして歌や音楽は人と人をつなぐものだからこそ、自分は1人じゃないと励まされ、1歩前へと歩めるようになるのではないかと思います。そういう文化芸術をもっと大切なものとして位置付けて、国も予算をふやすなどしてほしいと思います、日本という国が人間としての豊かさを育てることができる、そういう施策を実行してほしい、地方自治体としても。
- 新しい文化ホールが出来上がるが、市民や団体との連携がうまくいっていない。今まで市民会館7、文化会館20とそれぞれ使用について便宜が図られているが、今後それが継続されるのか、そして増加していくのか。団体だけに活動をまかせていて、市としての責任をどのように考えているのかわからない。新しいホールが出来るのであれば、市民が活動しやすいものを提言することが大事。
- 文団協対象以外のアンケート・・・勇払千人太鼓、樽前囃、苫小牧おどり、苫小牧ほつき音頭などは苫小牧市の郷土芸能ではないだろうか？
- 吹奏楽連盟としては、新しく開館する市民文化ホールが利用しやすくなることを期待しております。市民文化ホールの使用料が、現在の市民会館の1.5倍になるという話を伺っています。連盟加盟団体のすべてが、その使用料の高さに疑問を抱いております。「このままではホールで演奏会ができなくなる」という声も上がっています。現在、苫小牧市では中学校部活動の地域移行を推進しています。吹奏楽部も例外ではなく、現在市内に6つある吹奏楽部が4つに集約される方向で動いている、という話も出ています。部活動の地域移行が進めば、それだけ費用面の負担は増えますし、ましてや市民文化ホールの使用料が上がるとなれば、生徒一人当たりの費用負担が増大することは、容易に想像できることです。
- 小学校の部会を無くしたことから、書道や音楽など芸術を磨く機会が無く、作品展の機会もないので、芸術レベルは下がっている（習っている人が突出）。小学校に三星の書き初め展のポスターを貼ってもらったところ、今年は100点以上増えたそうなので、希望している人はいると思う。小学生から芸術に興味を持ち行こうが、結果的に将来の会員数増につながっていくと思う。